

初志をいつまでも忘れず
行動し続けます。

西宮市議会議員

まさたけ

田中正剛

市政市議会報告

<http://www.masatake.jp/>



将来を見据えて、現在の課題に対応する。

9月議会では、平成24年度の決算を審議しました。

57億円の黒字ではありますが、多額の財源を要する課題も山積しています。

先人の努力によって現在の西宮があり、現在の私たちの努力が将来の西宮を創ります。

今だけではなく、将来世代からも評価されるようなまちづくりを進めなければなりません。

税金のゆくえ ～自分が払った税金がどのように使われているのかを知る

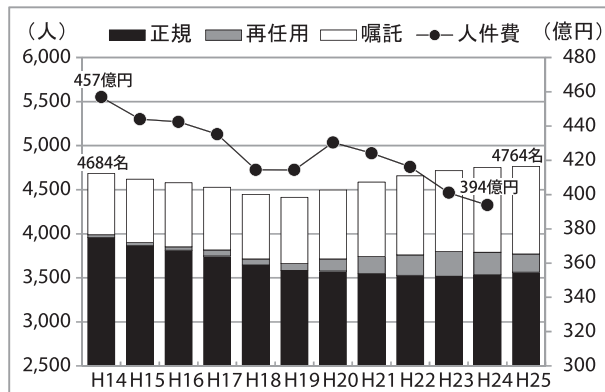
平成24年度決算は57億円の黒字。今こそ、将来への備えを。

■民間活用で人件費の抑制と質の向上を

平成24年度決算は、一般会計・特別会計合わせて57億円の黒字でした。そのような中、右表のとおり、人件費は減少していますが、職員数の推移は近年上昇しており、年功序列の給与体系では、将来的にまた上昇する可能性も秘めています。また、本格化する高齢化への対応、公共施設や道路などインフラの老朽化に対応するためには、人件費等固定経費の抑制がまだまだ必要です。そのためには、民営化を一層進めるべきです。特に、老朽化した公立保育所は、民間法人に移管することで運営経費を抑制できるだけでなく、建替えに国の補助金や民間資金も活用できます。そして、市の負担を抑えることができることから、保育所の老朽化対策も促進され子どもの安全性が増すなどメリットが大きいことを議会で提言しています。

また、中面にも掲載しましたが、特に技能労務職の職員が担っている業務などは、一層民間委託の範囲を拡大して職員採用を抑制し、スリムな行政を進めて将来へ備えるべきと議会では主張しています。

■職員数と人件費の推移



人件費は近年5年間減少していますが、平成24年度より再び正規職員数が徐々に増えています。

基礎学力の向上について、学校ごとの課題と対策を明示すべき。

昨年(2022)の12月議会の一般質問で、市内の小学校7校で学級崩壊の状況になったことが明らかになりました。その際に、学力が低下していることが懸念されるため、**補習の必要性**を主張しました。

右表のとおり、平成25年度の学力調査結果では、市全体の平均点は、全国平均を上回っている教科がほとんどですが、学校によって状況は大きく異なっていると考えられます。ですので、**各学校の状況と対策・取り組みを保護者に公表し、信頼を得るべきであると主張**しています。

また、学力格差が叫ばれる昨今、学力低位の子どもが増加している可能性も指摘し、近年の推移を分析し、今後対策を強化するべきと決算審議において指摘しました。

子どもたちの状況を最も把握できるのは保護者

です。教育環境の向上に向けて、保護者代表や地域の方々、校長等学校の先生で構成されている**教育連携協議会**も設置されています。学校の状況に関する情報をお寄せください。

■市の学力調査結果(平成25年度)

小学校		国語	算数		
4年生	西宮	61.9	76.7		
	全国	61.1	75.0	社会	理科
5年生	西宮	65.1	67.2	64.3	70.6
	全国	61.8	65.3	65.0	69.8
6年生	西宮			66.4	72.0
	全国			66.1	72.2
中学校		国語	数学	社会	理科
1年生	西宮	52.0	73.7	56.7	69.0
	全国	51.4	71.5	56.7	69.9
2年生	西宮	60.9	67.2	56.5	53.8
	全国	59.3	63.2	56.9	53.5

※小学6年、中学3年生の国語・算数(数学)は全国学力調査が4年ぶりに悉皆調査となり、調査が別になりました。

技能労務職の新規採用を抑制し、もっと民間委託を進めるべき。

■学校給食の調理業務を民間に委託したら給食の質は落ちるのか？

近年10年間で、学校給食の調理業務を民間に委託する自治体が増加し、全国では、およそ30%の公立学校で民間委託されています。現場での調理業務を民間企業に委託しても、管理監督は市が行います。にもかかわらず、市は民間委託すると「質が落ちる」として消極的になります。これは、民間企業を見下した「おかみ」の発想としか言いようがありません。10年前に直営のまま無理に人件費を抑制しようとした結果、同じ職場でほぼ同一の業務内容にもかかわらず賃金格差が生じました。そして、その給与体系改正後の新嘱託職員の途中退職者が非常に多くなっています。これでは、職員育成の観点から、かえって質が落ちている可能性も懸念されます。そこで、10年前に策定された「学校給食基本方針」を見直し、現在も委託されている給食運搬業務と一体にして調理業務を民間委託に切り替え、効率化を図るべきと主張しました。

下表のとおり、技能労務職職員の平均月額給与は、国と比較して平均年齢が低いにもかかわらず、給与は10万円以上も高くなっています。市は平成25年4月1日より新設した技能労務職給料表を適用し、給与水準等が見直されましたが、**将来的に全体で約10%程度の減と見込むにとどまりました**。今後は、民間委託によって、定年退職者に対する新規採用を控えて職員数を減らすべきです。

■職員の平均年齢と月額給与

	一般行政職(平均)		技能労務職(平均)	
	年齢	給与月額	年齢	給与月額
西宮市	38.4歳	40万3186円	47.0歳	43万7986円
国	43.1歳	40万5463円	49.9歳	32万5400円

■給食調理員の待遇の差異

	平均年収	平均年齢	人数	60歳前普通退職
正規職員	635万円	47.3歳	89人	0
旧嘱託職員	441万円	58.8歳	62人	0
新嘱託職員	278万円	43.2歳	162人	12人

給食実施平均回数：(小)約183回/年、(中)約176回/年

効率化、大学交流センターの活性化について報告します。
計画修繕、文化振興、各種証明書のコンビニ交付などを取り上げて議論しました。

12年前に設置された大学交流センター事業に約1億3000万円。 当時の意思決定は、将来を見据えていたものだったのか。

■税金投入効果の検証不足を指摘

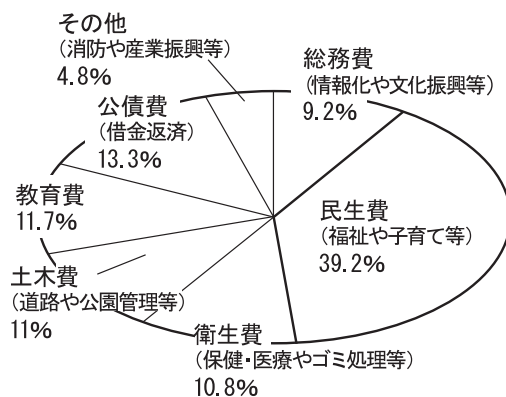
12年前に多額の借金をして大学交流センターを設置し、現在も事業費約1億3000万円のうち、借金の返済に約8000万円を費やしています。この返済は平成37年まで続きます。にもかかわらず、利用状況等の成果をみると、市内の大学と学生のニーズを本当に満たしているのか甚だ疑問です。決算審議では、大学が多数あるまちとして、当センターの活性化に向けて事業を改めて検証し、税金投入の効果を向上するよう指摘しました。

またこれは、当時の「箱モノ」整備の意思決定がもたらした課題であると受け止めています。これらを教訓に、市は、将来を見据えた意思決定を行わなければ、将来に負担と課題だけを残す結果となり

かねないことを肝に銘じるべきなのです。

■一般会計決算の主な内訳

一般会計支出:1,576億円(前年1,687億円)



借金残高:1,653億円(前年1,703億円)

貯金残高:232億円(前年207億円)

提言を実現へ

平成23年12月に議員提案で制定した三セク条例の活用と
一般質問で取り上げた「通学路の安全対策」について

市と第三セクターとのなれ合いの解消に向けて作った条例を活用

■やりっ放しにはしません。

平成23年に議員提案で制定した「西宮市第三セクター等への関与に関する条例」(31号参照)に基づいて、第三セクターの経営状況や公的支援の効果等が9月議会で報告されるようになりました。条例自体を形骸化しては制定した意味がありません。本会議においては、「西宮スポーツセンター」の役割について、決算審議では、「西宮市文化振興財団」の独立性の確保について取り上げて、市

と議論しました。

いずれも、事業の効果や成果を見る限り、第三セクターが設立された目的を達成できているとはいえない状況であると私は問題視しています。これは、市とのなれ合い意識が改革されていない結果であると考えています。まずは、市とのなれ合いを解消し、第三セクター自身が事業効果を上げ、存在意義を示す必要があります。今後も第三セクター改革を注視してまいります。

通学路の安全対策について

昨年6月議会の一般質問で取り上げた後、市民文教常任委員会の重要施策テーマにも取り上げられ、委員会でも集中的に議論をしました。平成24年度の緊急合同点検の結果、右表のとおり、190か所の危険箇所が確認され、各箇所の安全対策の内容と実施時期がまとめられました。今後、市に対しては、やりっ放しにするのではなく、定期的な点検・検証を求めています。田中も引き続き皆様からのご意見を募集していますので、詳細な資料のご請求は、事務所までご連絡ください。

■通学路の安全対策の予定

点検結果(危険箇所)	190ヶ所
対策済(平成24年度)	91ヶ所
平成25年度に対策	58ヶ所
平成26年度以降に対策	24ヶ所
時期未定	17ヶ所

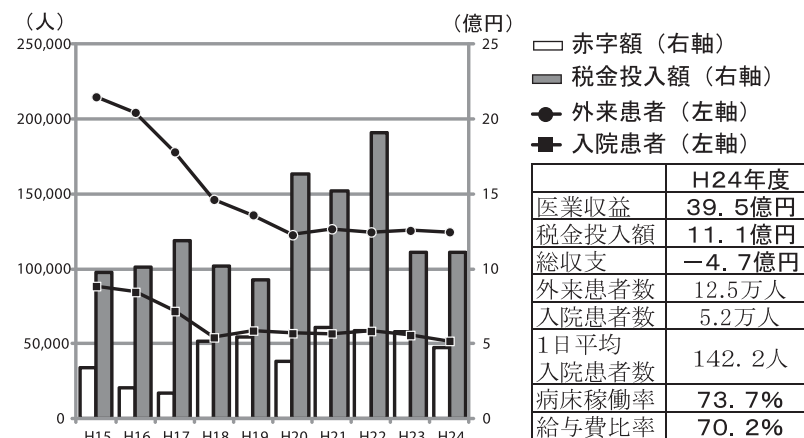
アサヒビール西宮工場跡地への新病院建設は、これからの本格的な高齢化社会を見据えた政策か。決断の時が迫っています。

9月議会では、約10haのアサヒビール西宮工場跡地の状況について中間報告がありました。9月に民間企業へ一括で売却され、来年3月までに予算が議会で可決すれば、市に3.8haを転売する契約となっています。本来であれば、兵庫県と連携を密にして企業誘致に乗り出すべきでした。市は平成24年に「企業立地促進基本計画」を策定しましたが、産業政策が後手に回ったと言わざるを得ません。周辺の環境を鑑みると、不自然な都市計画の変更による規制は困難であり、広大な市の中心部がすべてマンション群となれば、学校などのインフラ整備も検討しなくてはなりません。商業地としての開発が期待できない以上、市が購入して、老朽化した公共施設の再整備等に活用せざるを得ない状

況にあると考えています。しかし、市の中心部であるこの土地の使い方については、文教住宅都市のイメージに合った施設を集積するなど、将来を見据えてもっと慎重に検討するべきです。

市は、当地に市立中央病院を移転整備することを計画し、予定より半年遅れで基本計画が示されました。病院が新しくなってもまた、多くの市民から必要とされない病院となり下がることのないよう、現在の場所で改革するべきことがあります。まずは、現在の中央病院の赤字体質の改革と優秀な医師等医療スタッフの確保ができる経営体制の確立が絶対的な条件と考えています。来年は、重大な決断を迫られる1年となります。

■中央病院の利用状況と経営状況



赤字額は減少しましたが、患者数が伸び悩み、病床稼働率もまだまだ低い状況となっています。「子育てするなら西宮」の標語に見合った医療環境に寄与できる病院になり得るのか、そして、本格化する高齢化に対応できる地域医療支援の拠点となり得るのか、現在の場所での改革の成果や患者数等経営状況を勘案して、市長が提示する移転新築の妥当性を見極めなければなりません。

当報告書のバックナンバーや詳細は、

<http://masatake.jp/>

まさたけ

検索



田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四條畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議会議員事務所にて4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選

■政党:自民党 ■所属会派:蒼士会 ■現在の担当常任委員会:市民文教常任委員会 ■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンテ問題特別委員会委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)

ご意見・ご要望・資料のご請求は

西宮市議会議員 **田中 正剛** 事務所

〒662-0854 西宮市櫛塚町1-14 光永ビル3階
(兵庫県西宮庁舎南向かい)

TEL: 0798-22-5172

FAX: 0798-22-6172

E-mail: nishinomiya@masatake.jp

URL: <http://www.masatake.jp>

